

(Daily 日本史) ~奈良時代~

【問】 2003年 駒澤大学 文(地理/心理), 法(法律フレックスA)

次の文を読んで空欄〔1〕～〔10〕に最も適する語を以下の語群より選び、その記号を解答欄にマークせよ。同一番号の空欄は同一語句である。

752年に東大寺の大仏の開眼供養の法会が盛大に催された。それは歴史書『〔1〕』にみえる仏教伝来の年代552年から数えて200年目に相当する。

〔2〕天皇の有名な「夫れ天下の富を有つ者は朕なり。天下の勢を有つ者も朕なり」という大仏造立の詔が発せられたのは743年で、それは近江国の〔3〕宮においてである。その詔は『〔4〕』という歴史書に見える。大仏造立の詔と同じ年に墾田永年私財法が、そして741年に全国的に〔5〕建立の詔が發布されている。これらの政策はその当時の政治状況が密接に関連している。すなわち、これらの詔が出された背景には、740年の〔6〕の乱をはじめとする政治不安や悪疫流行がある。この乱は〔6〕が〔7〕政権の中枢に位置していた吉備真備・〔8〕らの専制を非難し、北部九州(大宰府)で挙兵したが、破れ敗死した事件である。この結果、〔2〕天皇をはじめとする朝廷の動揺が治まらず、都を転々と移すことになった。〔2〕天皇は、仏教の鎮護国家の思想によって、そのような社会の動揺を鎮め、国家を安泰に導こうと祈願し、一連の諸政策を実施したのである。

大仏は最初は〔3〕宮に造立されたが、745年の平城京遷都(遷都)により東大寺に造立されることになった。大仏の正式名称は〔9〕仏という。

この大仏の造立に大きな役割を果たしたのが〔10〕である。〔10〕は、初期には政府の弾圧を受けたが、用水施設や交通施設をつくり、民間布教と社会事業に貢献した。政府は〔10〕の労働力編成の巧みに着目し、〔10〕を大僧正に任命し、大仏造営への協力を要請した。

〔語群〕

- | | | | |
|---------|----------|----------|----------|
| ア. 阿弥陀 | イ. 安国寺 | ウ. 元興寺縁起 | エ. 鑑真 |
| オ. 桓武 | カ. 行基 | キ. 恭仁 | ク. 玄昉 |
| ケ. 国分寺 | コ. 古事記 | サ. 最澄 | シ. 紫香樂 |
| ス. 釈迦 | セ. 聖武 | ソ. 続日本紀 | タ. 橘奈良麻呂 |
| チ. 橘諸兄 | ツ. 天武 | テ. 道鏡 | ト. 長屋王 |
| ナ. 難波 | ニ. 日本後紀 | ヌ. 日本書紀 | ネ. 藤原仲麻呂 |
| ノ. 藤原広嗣 | ハ. 法王帝説 | ヒ. 薬師寺 | フ. 盧舎那 |
| ヘ. 良弁 | ホ. 和気清麻呂 | | |

【解答】

1 ハ 2 ニ 3 ネ 4 ヘ 5 ノ

6 エ 7 ク 8 サ 9 カ 10 ソ